

令和 6 年 3 月 11 日

秋田ヘアビューティカレッジ

校 長 小 野 繕 永 様

学校関係者評価委員会

委員長 佐 藤 敏 雄

学校関係者評価委員会報告

令和 5（2023）年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- 佐藤敏雄（潟上市議会議員 副議長）
- 沼田直子（株式会社 G E N I E ニコドロップ店長）
- 藤谷大和（有限会社ディーキューブ 取締役）
- 加藤直樹（株式会社ビー・エイチ 代表取締役）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 令和 5 年 6 月 27 日 火曜日
(会場 秋田ヘアビューティカレッジ 2 階メイク・ネイル室)
- ② 令和 5 年 10 月 30 日 月曜日
(会場 秋田ヘアビューティカレッジ 2 階メイク・ネイル室)
- ③ 令和 6 年 2 月 26 日 月曜日
(会場 秋田ヘアビューティカレッジ 2 階メイク・ネイル室)

3 学校関係者評価委員報告

別紙の通り

以上

各評価項目について

1 教育理念、目的、育成人材像

- ・教育理念、教育目的について、令和 7 年度から 8 年度にかけて見直し、改善を図っていくとのことであるので、スムーズに進めていただきたい。
- ・サロンの現場では、オールマイティの美容師より、専門職に特化した美容師という選択肢も社会のニーズとして増えてきている。機械化も重要だが、やはり基本の手技を強化していくことで、他の学校との教育に差別化を図れるのではないかな。
- ・エステの授業があり、基礎知識として学ばなければならないが、実際就職後に使えるレベルになっていない。実践で使えるカラーのエキスパートや、ヘッドスパ、メンズパーマなどのカリキュラムが学校の魅力になるのではないかな。

2 学校運営

- ・ファイル共有システムはあくまでも補助的なものなので、完璧ではなくてもいいと思うが、効率化のためにはデジタル化は推進していただきたい。

3 教育活動

- ・教員 2 名増えることは喜ばしい事ではあるが、生徒指導も大変な面が多いと思われるため、ハラスメントなどの対策には注力してもらいたい
- ・他県では美容コンテストにチャレンジする美容学校が増えてきているという話がある。今後、東北の美容学校でもそのような教育課程を設けていかなければならないのではないかな。幅広い教育活動というくくりの中において、生徒の意識を引き立たせる仕組みづくりが必須であると考えている。

4 学修成果

- ・全体的には向上が図られている。就職率の向上、離職率も低減しているとのことであり、取り組みを継続していただきたい。

5 学生支援

- ・引き続き、保護者・保証人と適切に連携を取りながら学生支援に努めていただきたい。

6 教育環境

- ・7月の豪雨の影響もあり、老朽化した設備を全般的に変えていかなければならないという状況は理解できた。

7 学生の募集と受け入れ

- ・来年度新入生の定員達成において、入試広報係をはじめとした学校全体での取り組みが奏功したとのこと。高校に対しての対応も引き続きしっかり行ってもらいたい。

8 財務

※特に意見等なし

9 法令等の遵守

※特に問題はなし

10 社会貢献

- ・生徒によるヘアショーのようなイベントを、OBOG やサロン・メーカーから協賛をいただいての開催を前向きに検討してもらいたい。

以上